

令和元年度がん教育総合支援事業 がん教育推進校実践報告

北海道名寄高等学校

学級数：10 学級 生徒数：339 人

【実践テーマ】

がんについての正しい知識の習得及びその予防について理解させる。また、健康と命の大切さについて主体的に考える態度を育成する。

外部講師との連携：「がんを知って命や生活を考える」

○講師：名寄市立大学保健福祉学部看護学科 中澤洋子 氏

○対象学年・人数：第1学年・99人（教職員12人）

○内容：

- ・がん発生と進行の仕組みについて
- ・がん治療について
- ・がん患者への支援について

評価アンケートの結果から、講話を通して、生徒自らががんや健康に対して主体的に考え、行動するような態度を育むことができたと考えられる。



他教科との関連を図った授業実践：理科（生物基礎）

○単元名：がん細胞発生のメカニズムと、その予防について

○対象・人数：第1学年C組・33人

○使用教材：文部科学省委託事業「がん教育プログラム」
(本時のねらいに合わせて、一部を活用)

○協力：名寄市立大学保健福祉学部看護学科・5人

○本時の流れ

- 1 導入
- 2 がん細胞の発生の仕方
 - ・がんにならないために自分ができることについてのグループワーク（看護学生がグループに助言）
- 3 検診や予防接種によるがんの発症を防ぐ方法
 - ・がんから身を守るために自分が大切な人に対してなすべき行動について個人思考



成果と課題

- 看護学生の授業参加により、生徒の興味や関心を高めるものとなり、グループワークでの考えを一層深めることができた。
- 生徒は、がんに対する知識等がほとんどないと考えられることから、講話や授業をより効果的に実施するため、何が知りたいか、がんのどんなことに興味をもっているか等を事前に考えさせる必要がある。

